

高架下と川、2つの壁

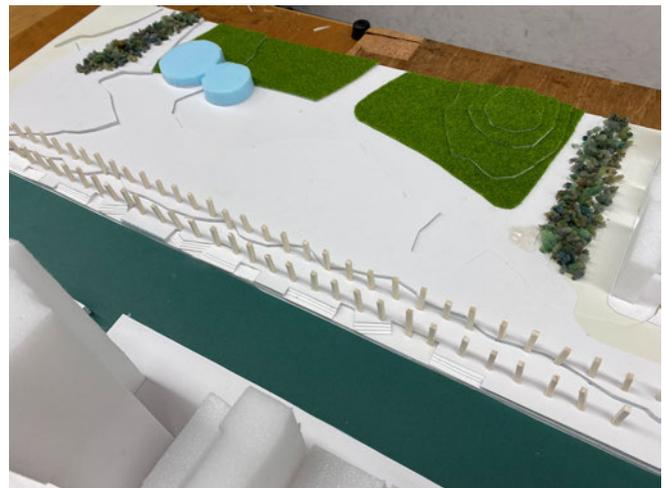


大橋采真
建築設計計画|研究室



□コンセプト

墨田川に繋がる川沿いに建つ商業施設を計画しました。高架下の利用方法と街との関係を考え直すことで、より良い空間の在り方を提案しました。川が身近なものあることを感じられる街になることを意識しました。



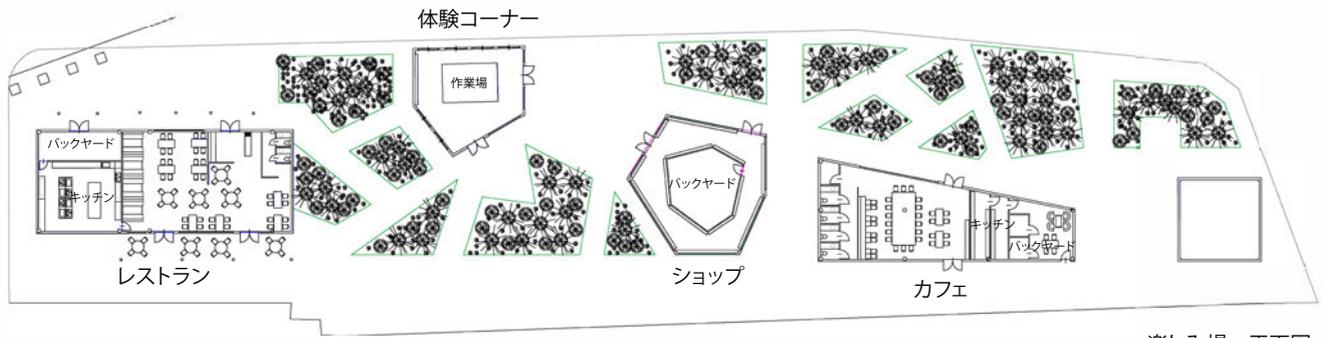
□プログラム

現状は、高架下に隙間なく並ぶ商業施設により街が分断されてしまっています。施設数を減らすこと、街の交流場としての機能を持った建物を建てることでエリア全体の在り方を見直しました。また施設数を減らすことで街と川の視線を通すことができるようになりました。エリアを3つにわけ、それぞれ商業・交流・遊びの役割を持たせました。エリアによって違う役割を持たせることで飽きることなくスカイツリーから浅草までを歩いて移動することができるようになります。

□デザイン

公園から川までを見通せるようにし、階段を設けることで広場から川までを一体の空間として認識できるようにしました。スカイツリー側のエリアは近くにある親水公園を意識して緑化したお散歩コースを計画し、計画敷地がスカイツリー-浅草間を繋ぐ遊歩道的役割を持った空間であることを感じられるようになっています。



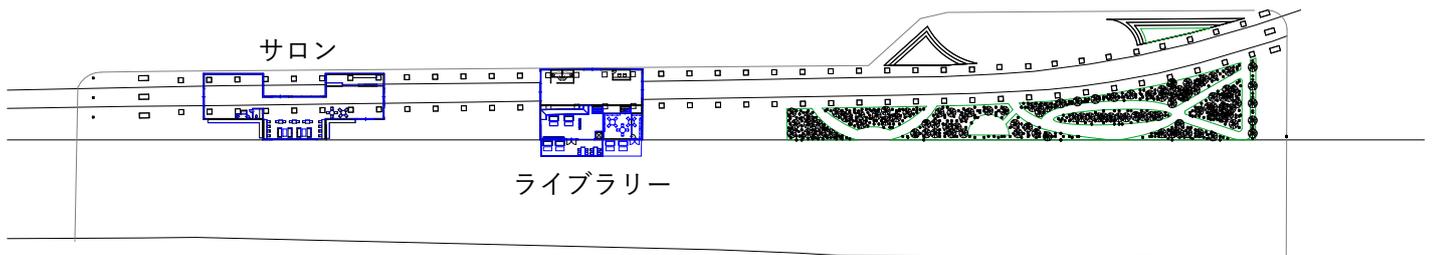


楽しみ場 平面図



商業的なスペース

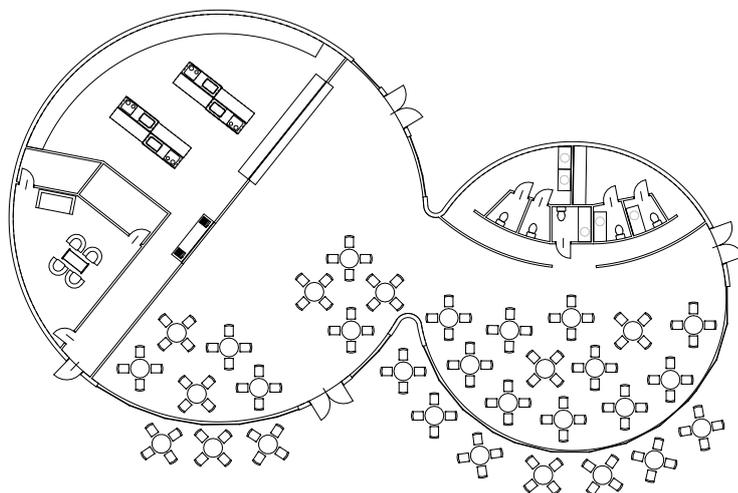
レストラン、カフェとともに伝統工芸品のショップとそれを体験出来る建物を併設しました。植栽によって小さな広場もあり、イベントなどで利用できるようになっています。



交わりの場 平面図

交流の場

ライブラリーとサロンを川に向かって開きました。サロンの壁面には縁側的な腰掛があり、ライブラリーは川の上に張り出した休憩スペースが設計されています。



公園のカフェ

公園全体の見守りの役割を果たしつつ、遊びにきた人々のお腹を満たします。ここから川に向かってさえぎる建物がないので、飲み物片手に川べりの階段でゆっくりすることができます。